

# 下里本邑(しもさとほんむり)遺跡

院長 長山 直弘



現生人類がアフリカを出て世界への拡散を始めたのは5、6万年前といわれます。彼らの一部がナウマンゾウやオオツノジカなど大型動物の群れを追って生活しながら日本に到達したのは約3万8千年前でした。そして1万6千年前から縄文文化が花開きました。世界四大文明のうち最も早く発展したメソポタミア文明が約9千年前であることを考えますと、縄文文化の古さは際立っています。縄文人には戦争の跡が見られません。よほど平和な心をもっていたのでしょう。

竹丘病院の駐車場を出て、西へ5分も歩かないところに下里本邑遺跡があります。約3万～1万年前の(後期)旧石器時代、8千年～5千年前の縄文時代、2千年前の弥生時代、千二百年前の奈良・平安時代の人々が生活したムラの跡が地下に埋まっていたのです。一定の場所に、多くの時代の人々がやってきては定住したということは、この地が気持ちよく、住みやすい場所だったということを示しています。黒目川と出水川が合流するところ、日あたりの良い高台と、豊かな水の流れ、さらに川の脇に広がる河川敷。

時代は下って二十世紀にはこの地は療養者の場所となって病院が建ち並びました。そして今は高齢者終焉の場所です。

この地の伝統を遠く振り返ったとき、この地をより明るい場所にしなければ、という気持ちになります。高齢者が明るい気持ちで旅立って行く、そのとき多くの気持ちが喜んでいる——そういう場所になって欲しいものだと思うのです。このあたりには多くの病院がありますが、下里本邑遺跡に最も近い竹丘病院には特に期待したいと思います。

今から千年、1万年、あるいは10万年後にこの地に人々は立っているでしょうか。幸いに立っているとすればその人々はきっと私たちよりずっと心が進化していることでしょう。その人々が過去を観照したとき21世紀に住んだ私たちをどのように眺めるのでしょうか。この地を少しでも暖かいものにしようとした私たちの心は感じられるほどのものとして残っているのでしょうか。それとも自我の膨らみが感じられるのでしょうか。ぜひとも前者であるべく精進したいものだと思います。